科目名			担当教員	
学習・言語心理学			柴田　理瑛・朝岡　陸	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FH3561	2	1	RorSR (講義)	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目です。2017 年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017 年度以前に入学した方は、「学習心理学」（科目コード：FH3512）を履修登録してください。
※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026 年度は開講しません（次回開講は 2027 年度）。
※オンデマンド・スクーリングは 2026 年度も開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶に関する研究、人間の言語に関する研究の３つの流れがありました。この３つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。

■到達目標

１）人の行動が変化する過程について理解し、説明できる。
２）言語の習得における機序について理解し、説明できる。
３）学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】

山内光哉・春木豊著『グラフィック学習心理学―行動と認知』サイエンス社、2001 年

（最近の教科書変更時期）2018 年４月

（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

【参考図書】

篠原彰一著『学習心理学への招待―学習・記憶のしくみを探る（新心理学ライブラリ）』サイエンス社、2008 年
森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学（心理学の世界　基礎編 2）』培風館、2011 年

スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフタス、クリステル・ルッツ、内田一成（翻訳）『ヒルガードの心理学（第 16 版）』金剛出版、2015 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、生体が自己の経験を通して行動を変容させていく過程や仕組みについて学びます。初めに、生体が特定の環境に曝されることによって誘発される学習と、生体が環境に働きかけることで誘発される学習について学び、次に記憶の構造や様々な技能の獲得について学んでいきます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して学習についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	古典的条件づけ	条件刺激、条件反射、パブロフの犬について
2	オペラント条件付け	スキナー箱、強化、強化スケジュールについて
3	条件づけの制約	刷り込み、生物学的制約について
4	技能学習	運動、認知、知覚技能の習熟について
5	記憶	多重貯蔵庫モデル、ワーキングメモリについて
6	記憶の変化	1 セントコイン実験や事後情報効果について
7	言語の習得	外言と内言の習得機序について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の１・２・３・６・７・８章は読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

教科書の１・２・３・６・７・８章は読み直してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	序章:行動と認知の学習	学習心理学の歴史とテーマについて概観する。	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	1 章:古典的条件付けの基礎①	古典的条件付けについて学ぶ。	古典的条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
3	1 章:古典的条件付けの基礎②	古典的条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	古典的条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
4	2 章:オペラント条件付けの基礎①	オペラント条件付けについて学ぶ。	オペラント条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
5	2 章:オペラント条件付けの基礎②	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
6	3 章:技能学習①	技能学習の基礎について学ぶ。	技能学習における学習曲線や結果の知識について理解し、説明できるようにしましょう。
7	3 章:技能学習②	技能学習における転移について学ぶ。	技能学習における転移について理解し、説明できるようにしましょう。
8	4 章:社会的学習①	社会的学習における模倣学習について学ぶ。	社会的学習における模倣学習について理解し、説明できるようにしましょう。
9	4 章:社会的学習②	社会的学習における観察学習について学ぶ。	社会的学習における観察学習について理解し、説明できるようにしましょう。
10	5 章:問題解決と推理①	問題解決と推理について学ぶ。	問題解決における特徴や推理の発達的変化を理解し、説明できるようにしましょう。
11	5 章:問題解決と推理②	創造性と熟達者の境地について学ぶ。	創造性と熟達者の境地に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
12	6 章:概念過程と言語獲得①	概念の形成と言語の獲得について学ぶ。	概念の構造や言語の獲得に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
13	6 章:概念過程と言語獲得②	言語と思考、言葉と脳について学ぶ。	言語と思考の関連について、ピアジェやヴィゴツキーらの理論を理解し、説明できるようにしましょう。
14	7 章:記憶と忘却	記憶と忘却について学ぶ。	記憶と忘却に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
15	8 章:有意味材料の記憶と表象	有意味材料の記憶と記憶の表象について学ぶ。	有意味材料の記憶と記憶の表象に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法を具体的に述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

特に教科書の７章がレポート課題に関係します。この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字は Century でお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

２単位めのレポートでは、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、２単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1,000 字以上 2,000 字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

まずは、第７章１節を読み、学習心理学における記憶について、記憶の３つの過程に触れながらまとめてください。書き出しは、「学習心理学で言う記憶とは～のことである」が良いでしょう。次に第７章４節の記憶の二過程説（多重貯蔵庫モデル）の説明を始めてください。書き出しは「記憶の二過程説とは～のことである」という表現が良いと思います。さらに、「今回のレポートでは持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法について考察する」という文言を入れてください。

次に、段落を変えて、記憶の３つの過程や二過程説に関連づけながら記憶力を高める方法について論述してください。次に、段落を変えて、第７章９節を参考に、忘却の仕組みについてまとめ、忘却を防ぐ方法について論述しましょう。最後に、段落を変えて、本レポートにおけるあなた自身の結論を述べて終了となります。

本レポートにおける生成 AI の使用レベルは **B（限定的利用）** とします。具体的には、**レポート本文の推敲・校閲（文章の読みやすさの向上、誤字脱字の確認、文法チェックなど）を目的とした使用のみ許可します。**内容の構成、要点整理、引用文献の要約、考察の生成、図表作成等、レポート内容に直接関わる生成的支援は認めません。また、生成 AI を使用した場合は、**引用文献一覧の末尾に以下の一文を必ず明記してください。**

「このレポートを作成するにあたって、文章を校正するために生成 AI を利用した。」

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。なお、科目修了試験に関しては、生成 AI の利用は認めません。